

1 カーボンニュートラルの  
推進

2 3 4 社会課題解決を通じた  
地域への貢献

5 6 コンプライアンス・  
ガバナンスの強化

対象マテリアリティ

# 環境マネジメント

## 基本的な考え方

カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会の実現に向け、環境行動指針および環境行動ガイドラインを制定しています。また、環境行動目標を定め、地球温暖化対策、資源循環、地域と連携した環境社会貢献など、幅広い環境活動に取り組んでいます。さらに、環境マネジメント体制を構築し、環境法令の遵守や環境教育に取り組むとともに、PDCAサイクルを通じて取り組みの進捗管理を実施しています。

## ● 環境行動指針

環境行動指針(1993年制定、2022年最終改正)は、当社の経営方針に位置づけられています。

### 環境行動指針

#### 基本方針

東邦ガスは、グループ各社とともに、地域および地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、環境に関する社会課題の解決を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。

#### 指針

- 指針1 お客さま先をはじめ社会全体における環境負荷低減に貢献します。
- 指針2 事業活動における環境負荷を低減します。
- 指針3 地域・国際社会と協働し、環境貢献を推進します。
- 指針4 環境に関する技術開発を推進します。

## ● 環境行動ガイドライン

環境行動ガイドライン(2011年制定、2022年最終改正)は、当社グループが取り組む環境活動に対する考え方や行動内容を定めたものです。

### 環境行動ガイドライン

#### 地球温暖化対策

天然ガスをはじめとする環境性に優れたエネルギーの普及拡大と高効率・高度利用、さらには、再生可能エネルギーの活用、ガス自体の脱炭素化を通して、サプライチェーン全体におけるカーボンニュートラルの実現をめざす。

#### 資源循環

事業活動の各段階において資源の有効活用を図るとともに、廃棄物の発生抑制・再利用・リサイクルにより外部排出量の最小化に努める。

#### 生物多様性保全

社会・経済の基盤となる生物多様性の重要性を認識し、事業活動における影響の把握・分析に努め、生物多様性に配慮した活動を推進する。

#### 環境社会貢献

地域・国際社会と協働した環境活動・プロジェクトへの参画や次世代層への啓発活動などを通して、環境に関する社会課題の解決に貢献する。

#### 技術開発

エネルギーの高効率・高度利用、水素・再生可能エネルギーの活用、CO<sub>2</sub>分離回収やメタネーションなど、カーボンニュートラル実現に向けた技術開発を推進する。

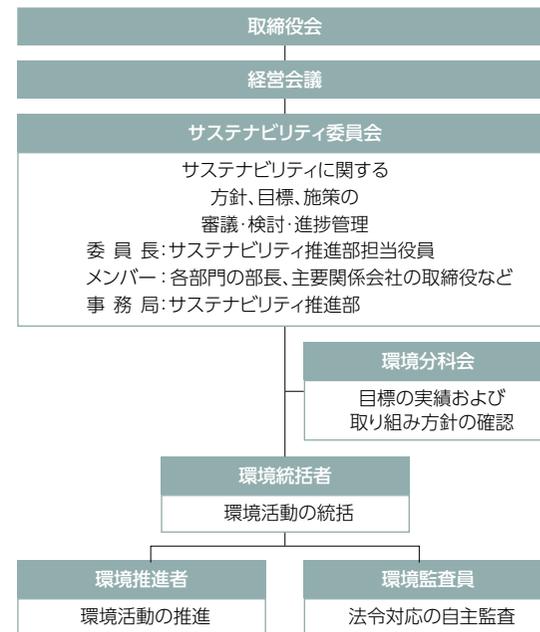
#### 環境マネジメント

環境影響を認識し、環境マネジメントを徹底するとともに、環境に配慮し自ら行動する人材を育成する。環境に関する法令、条例および協定等の要求事項を遵守する。

## ● 環境マネジメント体制

環境負荷低減や環境法令遵守など、環境に関する主要課題について、当社と主要関係会社から構成される「サステナビリティ委員会」において、活動の方針・目標・各種施策についての審議・検討・進捗管理を行っています。環境行動目標に関しては、「環境分科会」において各部門の実績の振り返りや取り組み方針の確認を行っています。さらに、当社各部や関係会社に、具体的な活動の推進を担う「環境推進者」、環境法令対応の自主監査を行う「環境監査員」、それらを統括する「環境統括者」を配して、環境活動の推進に努めています。

### 環境マネジメント体制図



## 環境マネジメント

### ● 環境行動目標(2022~2025年度)

2022~2025年度の環境行動目標を右表のとおり設定し、達成に向けた取り組みを推進しています。2024年度実績は表のとおりです。

事業活動でのCO<sub>2</sub>原単位抑制目標は、都市ガス工場の運用効率化などにより対前年度で2.2%改善しましたが、2022年度に原単位が悪化したことが影響し、目標期間通算では未達の状況です。引き続き省エネの徹底などによる原単位改善に取り組みます。その他の目標項目については、順調に進捗しています。

分野		目標項目	2025年度目標値	2024年度実績
環境 負荷低減	地球温暖化対策	CO <sub>2</sub> 削減貢献量	2020年度比 100万t	55.0万t
		再生エネルギー取扱い量	25万kW	14.6万kW
		事業活動でのCO <sub>2</sub> 排出原単位抑制	CO <sub>2</sub> 原単位▲2%/年	対前年度▲2.2%*(2022~2024年度通算+1.4%/年)
	資源循環	都市ガス工場の産業廃棄物のゼロエミッション化	維持(最終処分率1%以下)	最終処分率0.73%(2022~2024年度通算)
		ガス導管工事から発生する廃棄物の再資源化率	99%以上	99.4%
		事業活動を通じた3Rの推進		 資源循環に関する取り組み 詳細はWebサイトをご参照ください。 <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p60.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p60.pdf</a> <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_circular-economy.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_circular-economy.pdf</a>
生物多様性保全	ガス導管工事での天然山砂・砕石使用量の抑制	従来工法比15%以下	従来工法比11.8%	
	事業活動や地域貢献活動を通じた生物多様性の維持・復元、里山・森林の保全、地域固有種の保護への貢献		 生物多様性保全に関する取り組み 詳細はWebサイトをご参照ください。 <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p61-62.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p61-62.pdf</a> <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_biodiversity.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_biodiversity.pdf</a>	
環境社会貢献	地域と連携した環境貢献活動、地域・社会課題解決への貢献		 環境社会貢献に関する取り組み 詳細はWebサイトをご参照ください。 <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p65.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p65.pdf</a> <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_coexistence.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_coexistence.pdf</a>	
技術開発	エネルギーの高度利用、カーボンニュートラル化に向けた技術開発の推進		 技術開発に関する取り組み 詳細はWebサイトをご参照ください。 <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p39-42.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/ir/document/integrated/pdf/2025toho_tougou_p39-42.pdf</a> <a href="https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_carbon.pdf">https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_carbon.pdf</a>	

\* CO<sub>2</sub>排出原単位は、都市ガスの排出量算定条件(温度・圧力補正)を2024年度の条件に統一して対前年度増減率を算定しています。

 環境マネジメントに関する取り組み  
詳細はWebサイトをご参照ください。  
[https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho\\_web\\_e-management.pdf](https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_e-management.pdf)

1 カーボンニュートラルの推進

2 3 4 社会課題解決を通じた地域への貢献

5 6 コンプライアンス・ガバナンスの強化

対象マテリアリティ

## 地球温暖化対策

### 基本的な考え方

地球温暖化対策は、東邦ガスグループにおける重要な経営課題の一つです。エネルギー事業者として、お客さま先を含めた地球温暖化対策に取り組んでいます。

自社のCO<sub>2</sub>排出原単位の削減はもとより、お客さま先でのCO<sub>2</sub>排出抑制に向けて環境行動目標を設定し、環境性に優れたエネルギーの供給や、他燃料からの天然ガス・LPGへの燃料転換、燃料電池などの高度・高効率利用機器の普及促進を行っています。また、地域と連携した再生可能エネルギー活用などの推進、メタネーションやCO<sub>2</sub>回収・活用・貯留をはじめとする技術開発・実証など幅広い取り組みを推進し、2050年のカーボンニュートラル実現に挑戦します。

### ● バリューチェーンの環境負荷

バリューチェーン全体では、都市ガス・LPG・電力の製造・供給などの「事業活動」のほか、「原料調達先」や「お客さま先」の各段階で、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出をはじめとする環境負荷が発生します。

ガス事業においては、温室効果ガス排出量の多くは「お客さま先」が占めることから、当社グループではその抑制に取り組んでい

### バリューチェーンの温室効果ガス排出量



ます。また、「原料調達先」に関しては温室効果ガス排出状況を把握し、環境への負荷を評価しています。「事業活動」に関しても、エネルギー利用効率化、省エネなどによる温室効果ガス排出量の抑制に努めています。

### ● お客さま先における地球温暖化対策

事業活動を通じたCO<sub>2</sub>削減貢献量を目標に掲げて取り組みを進めています。

#### ● 天然ガスへの転換

天然ガスは、燃焼時におけるCO<sub>2</sub>およびNO<sub>x</sub>の排出量が化石燃料の中で少なく、SO<sub>x</sub>も発生しない環境性に優れたエネルギーです。お客さま先で使用されている燃料を、石油などから天然ガスへ転換し、温室効果ガスや大気汚染物質の排出抑制に貢献しています。

#### ● 高効率ガス機器・システムの普及

燃料転換と合わせて、お客さま先の設備に高性能なバーナなどを導入することで、CO<sub>2</sub>排出量のさらなる抑制につなげています。



ガスエンジンコージェネレーションシステム



貫流ボイラ

また、一般家庭向けには家庭用燃料電池システム「エネファーム」、業務用にはガスコージェネレーションシステム、高効率ボイラ、ガスヒートポンプ(GHP)空調など、エネルギー利用効率の高い機器・システムの普及を進めています。

### ● 事業活動でのCO<sub>2</sub>削減

エネルギー事業者として事業活動のあらゆる場面で省エネに配慮した取り組みを推進しています。

各事業分野にて省エネ設備投資の推進や運用管理の徹底を図っています。

#### ● 都市ガス工場における取り組み

都市ガス工場では、マイナス160℃程度のLNG(液化天然ガス)を海水と熱交換することで気化させてガスを製造しており、製造時のエネルギー効率が極めて高い製造方法を採用しています。

また、LNGの持つ冷熱エネルギーを、冷熱発電や隣接する工場でのドライアイス・液体窒素等の製造、LNGタンクで発生するBOG(ボイルオフガス)を再液化する装置などに有効利用しています。

さらに、工場間の相互バックアップや、在庫調整を目的としたパイプラインなどを工場間の送ガス量調整にも活用しています。これらを通じて、各LNG工場の運転効率が全体最適となるような運用方法の見直しを実施し、さらなるエネルギー使用量の削減を図っています。



地球温暖化対策に関わる取り組み  
詳細はWebサイトをご参照ください。

[https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho\\_web\\_global-warming.pdf](https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_global-warming.pdf)

## 資源循環

### 基本的な考え方

環境行動指針、環境行動ガイドラインのもと、資源循環分野の環境行動目標を設定し、天然資源の消費の抑制と循環資源の有効利用に向けて、都市ガス工場の産業廃棄物のゼロエミッション、ガス導管工事から発生する廃棄物の再資源化、ペーパーレスの推進など、3R(リデュース・リユース・リサイクル)の促進に取り組んでいます。

### ● 事業活動における廃棄物の削減および資源利用量の削減の取り組み

#### ● 都市ガス工場の産業廃棄物ゼロエミッション実現に向けて

都市ガス工場では、2008年度から産業廃棄物のゼロエミッション(産業廃棄物の最終処分率の抑制)に取り組んでいます。環境行動目標として最終処分率1%以下を設定し、継続して活動を続けています。

工場における廃棄物では、汚泥と混合廃棄物のリサイクルが課題であり、これらが最終処分量の8割を占めていました。海水取水口で発生する汚泥は、粒度に応じて、スラリー、砂、シルト、粘性土に分け、改めて配合することで、安定した流動化処理土とする「分級リサイクル」に着目してリサイクル率を向上しました。また、混合廃棄物については分別を徹底し、リサイクル率を高めています。

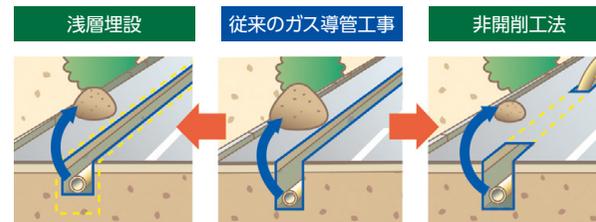
これらの取り組みにより産業廃棄物の最終処分率を抑制しており、環境行動目標期間通算でのゼロエミッションの達成を目指しています。

### ● ガス導管工事の産業廃棄物再資源化、天然山砂等使用量の抑制

ガス導管工事では、産業廃棄物として、がれき類に分類されるアスファルト・コンクリート塊(アスコン塊)、廃プラスチック類に分類される使用済みポリエチレン管が発生します。アスコン塊は再生アスファルト合材(舗装材料)や再生砕石として、使用済みポリエチレン管はガス管を保護する部材などの原料として資源リサイクルすることにより、ガス導管工事から発生する産業廃棄物の再資源化率99.4%を達成しました。

また、ガス導管工事に伴い発生するアスコン塊や掘削土の抑制のため「浅層埋設<sup>※1</sup>」「非開削工法<sup>※2</sup>」「更生修理工法<sup>※3</sup>」などの導入や、再掘削を要する工事での「仮埋戻し材<sup>※4</sup>」活用を推進し、2024年度は従来工法と比べて発生量を25%抑制しました。

さらに、掘削土は改良土センターにて再生処理し、ガス導管工事の埋戻し用土砂として資源リサイクルすることで、従来方式と比べて掘削土の外部排出量を72%削減。再生処理した掘削土と



非開削工法

- ※1 道路に埋設するガス導管の深さを従来の約半分にして敷設すること
- ※2 工事区間の両端に掘削坑を設け、ガス導管を地中に引き込む工法
- ※3 ガス導管を内面から補修する工法
- ※4 仮埋戻しに用いるポリエチレンのポール材



資源循環に関する取り組み  
詳細はWebサイトをご参照ください。

[https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho\\_web\\_circular-economy.pdf](https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_circular-economy.pdf)

## 生物多様性 — TNFD提言への対応 —

### 基本的な考え方

生物多様性の保全のため、事業活動における生物多様性への影響の把握や負の影響の改善に向けた取り組みを推進しています。生物多様性に関する取り組みをグループ全体として進めていくことで、「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において掲げられているネイチャーポジティブな社会の形成を目指していきます。

その実現に向けた自然との接点の識別や評価、取り組みの推進や体制整備にあたっては、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)の提供するフレームワークを活用し、開示要項に沿って自然の取り組みや分析結果を整理しています。

中でも、自然との接点の把握や、自然に関する依存・影響・リスク・機会の特定にあたってはTNFDから提供される分析アプローチであるLEAPアプローチ<sup>\*1</sup>に基づいて分析を実施しました。

<sup>\*1</sup> 企業活動と自然との接点や自然関連の依存・影響・リスク・機会の特定、目標策定などを評価、実施するためにTNFDが開発した分析手法で、Locate(発見)、Evaluate(診断)、Assess(評価)、Prepare(準備)の頭文字をそれぞれ取ってLEAPアプローチと呼ばれる。

### ● ガバナンス

生物多様性関連の取り組みは、「TCFD提言に基づく情報開示」における気候変動と同様の体制で管理・監視しています。また、当社グループでは「サステナビリティ方針」を定めており、これに基づき、事業活動が地域の自然環境に与える影響の把握に努め、生物多様性に配慮した活動を推進しています。

### ● LEAPアプローチによる分析

LEAPアプローチの分析範囲としては、事業規模と自然への依存・影響の大きさを考慮しつつ、より網羅的に事業と自然との関係性について評価するために、当社グループの主要事業であるガス事業については直接操業およびサプライチェーン上流の投資先を対象とし、その他の事業については直接操業のみを対象としました。

2024年度に実施した分析では、LEAPアプローチのうち、Locate(自然との接点の発見)、Evaluate(依存と影響の診断)に関わる項目についての分析を実施しました。



2024年度はLocateとEvaluateのみ実施

### ● 自然との依存・影響関係

TNFDで推奨されている分析ツールの一つである ENCORE<sup>\*2</sup>を使用し、潜在的な自然への依存と影響それぞれの観点から、対象事業と生態系サービスおよび自然資本との関係性を分析し、右上の表の結果が得られました。

ENCORE分析結果をもとに対象事業と自然との依存・影響関係をヒートマップでまとめたものをWebサイトに掲載しています。

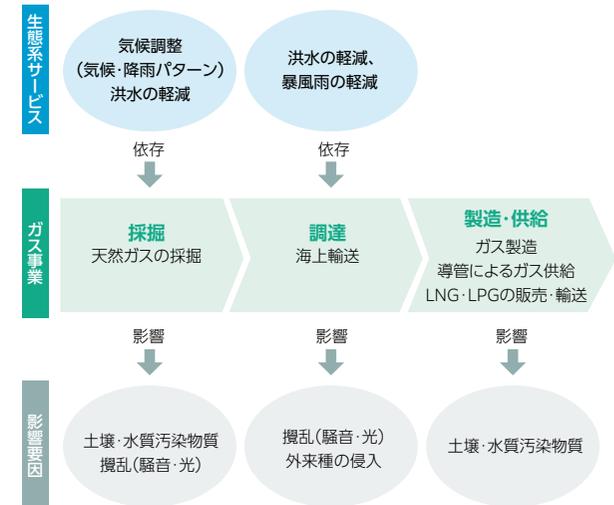
<sup>\*2</sup> 国連環境計画・金融イニシアティブ等が共同開発した、自然関連の依存や影響の把握を支援するツール。国際標準産業分類に基づき、経済活動ごとに想定される自然への依存や影響を評価するもの。

当社事業と自然との依存・影響関係を表すヒートマップ詳細はWebサイトをご参照ください。  
[https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho\\_web\\_heat-map.pdf](https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_heat-map.pdf)

### 対象事業の生態系サービスおよび自然資本との関係性

事業名	自然との依存・影響関係
ガス事業 (LPG含む)	天然ガスの採掘や都市ガスの製造プロセスにおける土壌・水質汚染の影響や、天然ガス輸送時のバラスト水による在来種への影響が高い可能性がある。サプライチェーンごとの詳細は下図参照。
電気事業	ガス火力発電における温室効果ガス排出による影響や、風力・太陽光発電における気候調整機能への依存が高い可能性がある。
熱供給事業	蒸気・冷温水等の製造プロセスにおける温室効果ガス排出による影響が高い可能性がある。

### ガス事業におけるサプライチェーンごとの自然との依存・影響関係



## 生物多様性 — TNFD提言への対応 —

### ● 要注意地域の特定

当社グループの操業拠点および主要事業における投資先と周辺  
の自然環境との関係性を把握することを目的として、TNFDに  
おける評価観点として推奨されている各種ツールを用いて当社  
グループにおける要注意地域を特定しました。

要注意地域特定のための分析ツールには、生物多様性の重要  
性を評価するためにIBATおよびGlobal Forest Watch、水ストレ  
スの評価にはAquaduct、生態系の十全性評価にはGLOBIOweb  
を使用しました。

分析の結果、自然公園や鳥獣保護区に近接することなどから、  
国内外32拠点を要注意地域として特定しました。

### ● 今後の取り組み

今後も生物多様性保全に貢献する取り組みを進めつつ、LEAP  
アプローチのAssess、Prepareのステップに着手し、積極的な情  
報開示にも努めていきます。特に、2024年度の分析結果について  
は、リスク・機会分析の中でより詳細に評価し、対応策や目標・指標  
の検討を実施していきます。

### ● 生物多様性保全に貢献する取り組み

#### ● ビオトープの設置

2000年に知多緑浜工場にビオトープを設置し、希少種、固有種  
の育成など生態系の保全に取り組むとともに、専門事業者により  
動植物種調査を実施しています。また、2010年にはガスエネル  
ギー館、2018年にはみなとアクルスにもビオトープを設置し、地  
域固有種の保全や環境教育などに活用しています。



知多緑浜工場のビオトープ

#### ● 命をつなぐPROJECTへの参画

「命をつなぐPROJECT」は、学生実行委員会が中心となり、知多  
半島臨海部の複数の企業と行政、専門家、NPOが協力し、企業緑地  
群をフィールドとした生態系の創出・保全や、持続可能な社会づくり  
の未来の担い手である学生の育成に取り組んでいる活動です。

当社は本プロジェクトに参画しており、緑地・ビオトープの整備  
や、地域学生と連携した外来種の駆除・生きものモニタリング調  
査などの活動に、近隣企業とともに取り組んでいます。

本プロジェクトの活動地である知多半島グリーンベルト(知多  
半島臨海部の企業緑地群)は、環境省にて2023年前期の自然共  
生サイトに認定されました。今後も各社と連携した取り組みを継続  
し、知多半島の生物多様性の向上を目指します。



知多半島グリーンベルト



生物多様性に関わる取り組み  
詳細はWebサイトをご参照ください。

[https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho\\_web\\_biodiversity.pdf](https://www.tohogas.co.jp/corporate/eco/pdf/2025toho_web_biodiversity.pdf)